

3つの学校の保健室

平成28年度、京都市立洛陽工業高等学校と京都市立伏見工業高等学校が統合され、専門学科をもつ京都市立京都工学院高等学校が誕生しました。

現在は、洛陽工業高等学校と伏見工業高等学校それぞれの3年生と、京都工学院高等学校の1・2年生、約750名の生徒が同じ校舎で生活を送っています。



布団を干す時などに便利です。

玄関に掲げられた3つの学校銘板



広々とした開放感ある校舎が、ぐるっと人工芝の中庭を囲んでいます。保健室は2階の小職員室の隣にあり、直接中庭にも通じています。

保健室から中庭に出られる扉



ラグビー部が有名な京都工学院高等学校ですが、その他にボート部、サッカー部なども強化指定部活動とされており、練習が盛んに行われています。そのため、スポーツ振興センターの申請件数も多く、様々な傷病のケースに対応されています。事務作業に追われる中でも、生徒たちに響くようにと工夫された掲示物が印象的です。

高校生の目をひくように工夫された掲示物



教職員・生徒に一人1台で活用するiPad



教育活動で使用するiPad（生徒は購入，教職員は貸出）は，校内であれば直接生徒とやり取りすることができ，保健だよりの配信などでも活用されています。

保健室内のシャワー設備



大きな布団収納庫



乾燥機付き洗濯機 や 自動製氷機



体育系部活動が盛んなため，自動製氷機は応急処置でのアイシングに活躍しています。

カーテンで区切ることができる 相談・休養スペース



高校生になると，メンタルケアが必要となることが多く，一つ一つの悩みや葛藤に丁寧に時間をかけて対応されています。



特色が異なる3つの学校の生徒たちを支える保健室の役割は大きく，多岐にわたります。

養護教諭の先生は，来室生徒の単位まで把握して細やかに対応されています。生徒指導や専門学科の教員との連携も欠かせません。

学校から新しい社会へと旅立つ生徒たちに，そっと寄り添い，励まし，サポートする保健室の様子をみせていただくことができました。